

アジア人材の活躍支援

アジアパイルHD

受け入れ拡大で技術底上げ

アジアパイルホールディングス(HD)が、アジア人材の活躍拡大に注力している。ミャンマーとベトナムからグループ全体で27人の技術者・技能実習生を今年受け入れる予定。国内での人材不足に対応しつつ、日本の杭基礎技術や品質確保などを学んでもらい、中長期的なアジア展開強化につなげる。日本語にたけたミャンマー人の管理職も新

たに配置し、仕事や生活などもサポートしていく。アジアパイルHDグループのVJPが、ミャンマーでコンクリート杭の製造・販売を手掛けている。同国はクーデター以降、建設需要が低迷している状況にある。このため同社の技術者と技能者18人に、日本事業会社であるジャパンパイルの工場や本社設計・技術部門などで勤務してもらい、技術レベルの向上に生かす。

ベトナムのグループ会社ファン・ブー・インベストメント・コーポレーションからの受け入れや、ジャパンパイル基礎工業での技能実習生受け入れなども予定する。アジアパイルHDの宮川聡男執行役員国際事業推進部ミャンマー室長は「(両国では)日系顧客から高品質が求められており、



右から松山氏、ニーレイレイ氏、宮川氏

人材底上げの機会にする」と狙いを説明する。

受け入れに先立ち、VJPで総務部長を務めていたニーレイレイ氏がアジアパイルHDの人事部部長付で着任した。ニーレイレイ氏は「日本での生活や文化に慣れてもらい、安心して能力を発揮できるようにサポートする。ミャンマーで建

設業が発展し、アジアトップの国になってほしい」と先を見通す。

以前から外国人を受け入れていた本社と茨城工場に加えて、今回は岐阜工場でも新たに受け入れを始める。松山直己人事部長は「外国人向けマニュアルなども整備し、優秀な人材を育てたい」と話す。

